

2023 年度上智大学法科大学院入試 (C 日程)

一般論文試験 出題趣旨・採点基準

<出題趣旨>

本問設例は、第2次世界大戦中の事件を下敷きにしており、A国はイギリス、B国はドイツである。主として「現に危機に瀕している人々」と「潜在的に危機に瀕する人々」の利益を秤にかけた上でいずれを優先するか、というテーマへの応答を、それぞれの事例に即しつつも首尾一貫した形で説明しうるかを問う問題である。その際以下の諸点を考慮する。

- ・対立する利害の双方を見比べ、公平な形で解決策を示しうるか？
- ・問題状況の性質に応じながらも、恣意的・場当たりのでない一貫した思考ができるか？
- ・例外を認める場合、その理由を説得的に述べられるか？
- ・自説に対する批判を真摯に想像し、適切に応答することができるか？

<採点基準>

設問1、2(1)(2)全体(各15点…基礎点として設定。整合的であれば最大15点加点)

結論はいずれも可だが、理由もなしに矛盾した答えを述べている場合は、5～10点減点。

設問1 a町へのB国軍の攻撃に対し、特別な防衛策を講じるか？ その理由は？

例I 講じる…現に切迫している5000人の生命を放置すべきでない

(iへの応答：あくまで想像上の危険より現実化した危険の方を優先すべき)

i 講じない…5000人を守ることでより多くの人命を危険にさらすことは不適切

(Iへの応答：想像上とは言え、戦時下ではa町住民以外の国民の人命も切迫している)

設問2(1) 賃借人保護のための新規立法に賛成か反対か？ その理由は？

例II 賛成…立場の不均衡故に現に不利な立場にある賃借人を保護すべき

(iiへの応答：住居という重要な生活インフラを奪うには、慎重であるべき)

ii 反対…不誠実な現在の賃借人を保護してまで、潜在的な賃借人が不利益を被る

(IIへの応答：賃借人が一概に有利な立場にあるとは言えない)

※I→II、i→iiが素直だが、正当な理由(人命がかかっていない、現実と想像の距離が設問1より近接していない、など)があれば、たすき掛けも可

設問2(2) 石油消費半減策を世界的に合意することに賛成か反対か？ その理由は？

例III 反対…想像上の存在に過ぎない将来世代のために、現存世代を害するのは不当

(iiiへの応答：将来世代のニーズは不可知、計画的絶滅の可能性)

iii 賛成…将来世代の存在は、現存世代の制度を支える以上、配慮の対象たるべき。

(IIIへの応答：想像上に過ぎない存在でも配慮すべきことは、世代を超えても同じ)

※I→III、i→iiiが素直だが、たすき掛けも十分な理由が示されれば可能

【その他】

- ・議論の流れの一貫性や主張の明確さが際立つ回答に、最大プラス40点
- ・字数が極端に少ない答案は大幅減点。誤字脱字は、著しい場合のみ最大マイナス20点。